

氏名 堤 康 一 郎
授与した学位 博 士
専攻分野の名称 医 学
学位授与番号 博甲第 4687 号
学位授与の日付 平成25年 3月25日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Monitoring of CA19-9 and SPan-1 can facilitate the earlier confirmation of progressing pancreatic cancer during chemotherapy
(CA19-9とSPan-1のモニタリングにより膵がん化学療法中の早期増悪判定が可能である)

論文審査委員 教授 藤原 俊義 教授 吉野 正 准教授 水島 孝明

学位論文内容の要旨

【背景】予後不良である切除不能膵がんに対する1次化学療法の早期増悪判定が可能となれば、2次化学療法の導入率向上が期待できる。

【方法】1次治療でGemcitabineを投与した本疾患90例について、投与開始後1ヵ月毎に腹部造影CT検査と4種の腫瘍マーカー(TM)測定を行った。前期群にてRECISTによるPD判定までの毎月のTM変動率を解析して早期増悪判定基準を設定し、それを後期群に適用させ早期増悪判定が可能かどうかを、retrospectiveに検討した。

【結果】CA19-9(陽性率83%)では前期群での基準により後期群の61%で早期増悪判定が可能であった。同様に、SPan-1(陽性率90%)では後期群の59%で早期増悪判定が可能であった。また両者陽性の49例ではCA19-9単独より両者併用でその感度は上昇し(61%→72%)、併用時は有意に早期増悪判定可能であった(P=0.004)。

【結論】CA19-9とSPan-1のモニタリングにより早期増悪判定が可能であり、有用な指標になることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、Gemcitabineを投与された切除不能進行膵癌患者90例で、腫瘍マーカーの変動が腹部造影CT検査でのRECISTによる増悪(Progressive Disease; PD)判定の指標となるかどうかを検討した後ろ向き研究である。CA19-9の変動で61%が、またSPan-1で59%が早期増悪判定することが可能であり、両者陽性であった49例ではCA19-9とSPan-1の両者併用することで72%に感度が上昇した。本研究の臨床的有用性を明らかにするためには、さらなる大規模な前向き試験が必要であるが、CA19-9とSPan-1のモニタリングが進行膵癌の早期増悪判定に応用できる可能性が示唆されたという意味で、本研究は価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。